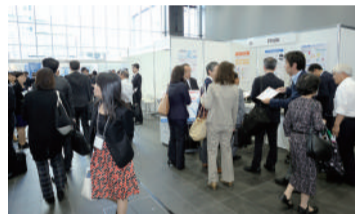
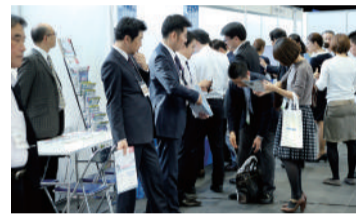




会計業界の一大祭典! “マイナンバー”にフォーカス

会計事務所博覧会 2015

本紙「税界タイムス」を発行する「ゼイカイ」が主催した第2回「会計事務所博覧会2015」=写真。会計業界の最先端ツール等が集結したこの博覧会は、10月6、7日の2日間にわたって「秋葉原UDX AKIBA SQUARE」にて開催され、会計事務所向けの各種サービスや最新のシステム展示が行われた。最大のトピックは「マイナンバー」で、今回の博覧会を“マイナンバーの日”と位置付けて、基調講演やパネルディスカッションを開催したほか、出展企業の多くもこのマイナンバーにフォーカス。システム対応商品やサービスの展示で、マイナンバーの最新動向や今後の会計事務所経営のあり方を模索するための価値あるイベントとなった。(8面にマイナンバー関連記事)



INDEX

再生型事業承継の特化組織	2面
在宅スタッフ紹介サービスが好調	3面
幹部育成で初のプレゼン競技大会	4面
相続増税時代の不動産リスクとは	5面
WEB研修ツールを徹底解説	6面
事務所経営ノウハウを公開	7面
どうする?「マイナンバー」の運用管理	8面

会計事務所の所長、職員らを対象に、業界最前線の「潮流」を伝えた会計事務所博覧会。今年には出展企業29社が参加し、さらにパワーアップ。最新の財務・会計システムの展示を中心に、話題のクラウド会計システム、会計事務所の顧問先開拓・業務効率化などの様々なシステム・サービスを一堂に集め、会計事務所が新たな仕事を生み出すことができるソリューション展としての存在感を一気に高めた。

業界の最大の関心事である「マイナンバー」への対応については、出展企業の会計ベンダーが全国各地で開催するユーザー対象のセミナーと差別化し、博覧会ならではの工夫を凝らした基調講演やパネルディスカッションで演出。セミナー会場を拡大し、モニター中継の第2会場までほぼ埋め尽くされたセミナー会場では、マイナンバーのオーソリティらによる講演内容を真剣に聞き入る光景が目立った。

セミナー関係で、内閣府担当官によるマイナンバー基調講演は、税理士対象ではおそらく業界初となるもの。講師の内閣官房社会保障改革担当室内閣参事官の三橋一彦氏を囲んで終了後の質問には、長蛇の列ができた。また、その後に行われた「マイナンバーの収集方法と事務所の対応」と題したパネディスカッションでは、マイナンバーで日本一の講演実績を誇る「さくら中央税理士法人」代表社員の安田信彦税理士がモデレータとなり、パネラーの丸山恭子、内田敬博、木幡仁一の

各税理士が、会計事務所が取り組むべきマイナンバーの対応について多角度から検討した。マイナンバーの担い手でもある税理士にとって、対応業務の最初のハードルとなるのが、マイナンバーの収集・保管だ。また、新たな業務となる制度だけに、税理士としても負担やリスクが大きい。そうした課題に対して、会計事務所が準備すべきポイントやセキュリティにまでに範囲を拡げた内容に、参加者らはメモを取りながら聞き入っていた。

また、袖山喜久造税理士の「改正された電子帳簿保存法を読み解く」と題した特別講演、独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) 研究員の江島将和中小企業診断士による「会計事務所のための情報セキュリティの考え方」をテーマとした基調講演も、好評を博した。

このほか、クラウド時代における会計事務所業務についての特別講演も人気を集めた。とくに、クラウド会計大手3社によるパネルディスカッションは、業界初の企画。モデレータに元マイクロソフト出身の杉山靖彦税理士、パネラーとして弥生(株)岡本浩一郎、アカウンティング・サーズ・ジャパン(株)佐野徹朗、(株)フリーウェイジャパン井上達也の各社長が登場。「クラウドサービス」の普及により会計業務がどのように変化していくのか、また、訪れるビジネスチャンスはどう掴めばいいのかなど、これからの会計事務所経営に役立つ意見や提案等が大きな関心を集め

た。また、博覧会のテーマになった「マイナンバー対策」についても、登壇企業としてマイナンバー制度をどのように見ているのか、それに対してどのようなソリューションを提供するかなど、各社独自の見解を披露した。

700名を超える来場者からのアンケートを見ても、「資料収集」や「経営の参考に」「製品・システム購入の参考に」と回答した声が多く、具体的に「マイナンバーへの知識を増やすため」とした回答も目立つ。マイナンバーセミナーについても、過半数が「期待以上・ほぼ期待通り」と満足しており、今後、「会計事務所のための情報セキュリティ」や「業務効率化」「クラウド会計・税務」等のセミナーテーマを望む声が高かった。

現在の会計事務所経営の課題解決に役立つシステムやツールなどが一堂に揃うことが会計事務所博覧会の最大の特徴となっており、なかなか見る機会が少ない会計事務所が母体となって開発された商品・サービスの展示もまとめて見られることで、来場者らの関心を大いに集めた。ゼイカイでは、これからの会計事務所の成長と発展に向けて、次の一手を考えるヒントをこのイベントで提供していくことにしている。

なお、次回開催については、2016年10月後半に同会場で開催する予定。詳細が決定次第、業界関係者や読者の方々に紙面やホームページで案内していくことにしている。

<http://kaikeihaku.com>



高橋実行委員長から優勝トロフィーを授与された浦井雄平氏・左

特設ステージ企画として、昨年の博覧会で初開催となった「会計事務所決算品質大賞」コンテストの第2回大会も実施された。この催しは、全国の税理士事務所の税理士や職員が、会社の決算書をいかに「早く」「正確」に作成するかを競う大会。架空の会社の伝票や預金通帳などの証憑書類から決算報告書と元帳を作



第2回「会計事務所決算品質大賞」コンテスト

優勝は税理士法人しんかわ会計 浦井雄平氏

成し、eメールで提出された決算書の正確性とスピードから優勝者が決まる仕組み。

会計事務所としての真の実力を客観的かつ公平に競い合うコンテストで、事務所の規模、創業年数にかかわらず好成績を目指すことが可能だ。感情的なものが一切入り込む余地がなく、会計事務所としての真の実力を客観的かつ公平に競い合うコンテストという意味合いから、入賞者にとっては対外的に相当なアピール効果が期待できるのがメリット。

第2回となる今大会は、税理士法人しんかわ会計横

浜支店の浦井雄平氏が日本一の栄冠を勝ち取った。2位は黒川税理士事務所の福本英紀氏、3位が税理士法人新日本の和美智伸氏。全国の53事務所による激戦を制し優勝した浦井雄平氏は、「まさか優勝するとは思っていなかった。これを励みとし来年も出場したい」と意欲的だった。

なお、来年度もこのコンテストは実施される予定で、エントリー等についての詳細は、「会計事務所決算品質大賞」のサイト (<http://zeirishi-contest.com/>) で案内していく。